

平成30年度長岡市ふるさと創生基金事業活動報告書 栃尾支所

■事業名

あぶらげんしん活用促進事業

■事業目的

栃尾のご当地キャラクター「あぶらげんしん」のデザインは現在パターンが少ないため、栃尾の魅力を広く発信する様々な場面で活用できるように公募によってデザイン数を増やす。

このコンペをきっかけに栃尾について考えてもらい、完成したデザインを使用することで多くの人から栃尾の発信者となってもらう。

■活動経過・内容

【実施主体】 栃尾商工会商業青年部

【内 容】 「あぶらげんしんバリエーションアイデアコンテスト」を開催

応募期間：平成30年9月～10月31日

応募点数：150点

(地域内115点、市外33点(旧長岡含む)、県外2点)

入賞作品：14作品(入賞者10名)

- ・応募チラシを新聞折り込み、プレリリースしてコンテスト開催を発信
- ・郵送、ファックス、Eメールの受付方法でデザインの応募を募った。
- ・応募デザインの中から入賞作品を審査し、入賞者にはオリジナルグッズをプレゼント
- ・入賞作品の活用に向けて、リメイクしたデザインの使用申請方法をネットのフォームを使用することで申請の簡略化を行った。

■事業実施の効果(実施のメリット)

- ・栃尾のゆるキャラ「あぶらげんしん」の新しいポーズや衣装のバリエーションが広がり、使用目的に応じたデザインを活用できるようになった
- ・市外、県内外からの応募も多くあり、コンテストを通じて栃尾地域をPRできた。

■今後の課題や、事業の拡大

- ・活用促進のためデザインの使用申請フォームへのQRコード等を貼付したクリアファイルを作成し配布。
使用状況を確認しながら様々なPR方法を検討して行く。



平成30年度長岡市ふるさと創生基金事業活動報告書 栃尾支所

■事業名

子どもの健康づくり推進事業

■事業目的

子どもたちが心身ともに健康で自立した大人に成長できるよう、保護者として子供たちにどう向き合えば良いかを学び合う機会を設け、家庭と学校、地域関係者が連携して子育てしやすい地域づくりを推進する。

■活動経過・内容

【実施主体】 栃尾地区子どもの健康づくり推進連絡会

【内 容】 親子のコミュニケーションをテーマとした講演会を開催。講演会後半にグループワークを行い、子育ての悩みや質問を出してもらい、講師から直接アドバイスを得た。

講演会日時：平成30年6月23日（土） 午前10時～正午

会 場：栃尾産業交流センターおりなす てまりホール

講 師：教育評論家 親野 智可等氏

講演テーマ：「親力で伸びる子どもの将来」

来 場 者：約160人

■事業実施の効果(実施のメリット)

- ・講演会で子育てにおける具体的なアドバイスを多く聞くことができ、これからの子供との向き合い方について参考になった。
- ・日ごろ悩んでいた子供の関わり方について、叱らない理由や対処方法を理解できた。子育てだけでなく、夫婦・家族関係に通ずるものがあり考える機会となった。
- ・講演会を通してコミュニケーションを図ることで、子育てについての情報を共有することができた。

■今後の課題や、事業の拡大

- ・今回の講演は幼少期の子育てについてだったが、中学校・高校生の思春期の子育てについて対象を変えた講演会を検討して行く。
- ・講演会を聞く機会が少ないため、今後も継続して開催に取り組んで行く。



平成 30 長岡市ふるさと創生基金事業活動報告書 栃尾支所

■事業名

地域の宝ブラッシュアップ事業

■事業目的

石峠の山城遺構など、入東谷地域にある地域資源を観光資源としてブラッシュアップし、交流人口の拡大につなげる。

入東谷の6集落が連携して事業に取り組むことによって、入東谷地域全体の活性化を目指す。

■活動経過・内容

【実施主体】 入東谷活性化プロジェクト

【内 容】 旧石峠街道の松尾側から松尾城・栗山沢大地蔵様へ続く散策ルートの草刈り、雑木伐採を行ない整備した。また、街道の崩落した危険箇所は重機を搬送して整備した。区民対象の石峠遺構の座学勉強会のほか、住民を対象とした山城への古道を訪ねる散策ツアーを開催した。

整備作業：6月から10月 除草作業、雑木伐採委託作業・重機整備作業

座学研修会：7月28日（土）区民対象に石峠遺構の座学勉強会

散策ツアー：10月28日（日）市民対象に石峠遺構の实地勉強会 参加者40名

■事業実施の効果(実施のメリット)

- ・地元住民を中心に峠道街道を整備し、山城遺構についての勉強会や散策ツアーを開催することで、旧石峠街道が地域の宝として再認識された。さらに、散策ルートとして整備完成に向け、今後の事業実施に向けた気運が高まった。
- ・目標に向かって集落間の連携と協力で事業が進められたことによって、入東谷地域全体の活性化に向けて連帯感が強まった。
- ・地域資源を幅広く継続的に紹介することで、交流人口の拡大が期待される。

■今後の課題や、事業の拡大

- ・整備事業を継続し、栗山沢からの散策ルートを完成して周遊コース化を図る。
- ・旧石峠街道の除草作業、案内標識等の維持管理の継続について、入東谷集落で検討していく必要がある。



平成 30 年度長岡市ふるさと創生基金事業活動報告書 栃尾支所

■事業名

地域と栃高生との交流促進事業

■事業目的

地域の将来を担う高校生に地域への愛着を深めてもらうとともに、地域住民にも地元栃尾高校の活動に対する理解を深めてもらうため、栃尾高校生と地域住民との交流を促進することを目的とする。

■活動経過・内容

【委 託 先】 NKS・TRC共同事業体

【内 容】 栃尾高校生の企画運営による書道パフォーマンスや体験型模擬店などの出張文化祭「来て！見て！作って！体験フェスティバル 2018」を開催

日 時：平成 30 年 8 月 10 日（金） 午後 1 時～4 時

会 場：栃尾ショッピングモール TOPPY

来場者数：一般来場者 延べ約 324 人

（栃尾高校生及び先生 85 人、ボランティア 5 名）

■事業実施の効果(実施のメリット)

- ・地域の商業スペースを活用して開催することにより、地域住民や他地域の方の来場も多くあり、栃高生の活動を広く知ってもらう機会となった。
- ・栃尾高校創立 110 周年を踏まえ、高校生自らの企画・運営によって地域関係者と協同で実施できたことにより達成感がえられ、地域への愛着を醸成することができた。

■今後の課題や、事業の拡大

- ・イベント内容のマンネリ化をどう回避するかが課題である。今後、地域性を出すブースづくりなど、テーマをあげてリピーターを増やすための工夫と広報活動について検討して行く必要がある。



平成30年度長岡市ふるさと創生基金事業活動報告書 栃尾支所

■事業名

花ももの郷PR事業

■事業目的

栃尾地区を一望できる鳩峰・栄六園（鷹待場）と山道に地域住民の散策と憩いの場と花見の名所として整備してきた「花ももの郷栃尾」を地域内外にPRし、交流人口の増加を図る。

■活動経過・内容

- ・遊歩道の案内（地図）板を駐車場に設置し、登りに案内表示を設置
- ・花ももの郷遊歩道のパンフレットを作成し、PRのため観光協会窓口、施設等に設置
- ・遊歩道の周辺樹木の伐採、除草整備
- ・散策イベントの実施

【日時】 平成30年9月23日（日）午前10時～

【内容】 山野草（薬用植物）めぐり

講師：広橋義和氏

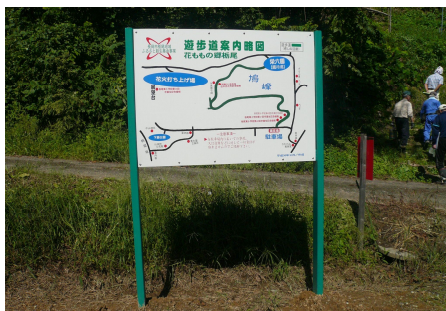
【参加人数】 20人

■事業実施の効果(実施のメリット)

- ・遊歩道の案内板設置により利用者の利便性が向上した。遊歩道周辺整備によって花ももの郷の眺望が改善できた。
- ・パンフレットの設置により花ももの郷を知ってもらい、栃尾地域をPRすることができた。

■今後の課題や、事業の拡大

- ・少子高齢化に伴い会員数が減少傾向にあり、遊歩道の除草・整備作業の人員確保について今後の課題である。また、植樹してある花ももの消毒、冬囲い等の生育管理についても同様の課題がある。



平成 30 年度長岡市ふるさと創生基金事業活動報告書 栃尾支所

■事業名

トチオノアカリ支援事業

■事業目的

栃尾の中学生のアイデアから生まれ、栃尾の若者の手によって実現された「栃尾夜のランプ祭り」は、「秋葉百八風鈴灯」などのほかのイベントとの同時開催により「トチオノアカリ」として大イベントに成長した。

この新たな栃尾の魅力の一つとなった「トチオノアカリ」を継続して実施できるよう支援し、交流人口のさらなる拡大を図る。

■活動経過・内容

【実施主体】 トチオノアカリ協議会

【内 容】

- 「とちお夜のランプまつり」と「秋葉百八風鈴灯」を一つに統合したイベント「トチオノアカリ」を開催し、秋葉門前ナイトマルシェを同時開催
日時：平成 30 年 9 月 8・9 日（土・日） 午後 5 時点灯開始～午後 9 時
来場者数：延べ約 12,000 人
- 「#トチオノアカリ」で [instaguram](#) に投稿するだけで参加できるトチオノアカリフォトコンテストを同時開催し、応募数 300 件の中から入賞作品を選定し、谷内通りのお休み処に展示
応募期間：9 月 8 日（土）～23 日（日）
応募件数：約 300 件
入賞：大賞 1 点、金賞 1 点、銀賞 2 点、会長賞 1 点



■事業実施の効果(実施のメリット)

- ・ イベント開催時の雨模様であったが昨年以上の来場者があった。
- ・ スタンプラリー参加者やフォトコンテストの応募者を見ると近隣市町村だけでなく新潟市や上越市といった県内からの来場もあり、認知度が高まってきている。
- ・ 飲食ブースでは昨年よりも売れ行きが伸び悩んだが、周辺の飲食店では満席になった店舗も多く、イベントの波及効果があった。

■今後の課題や、事業の拡大

- ・ 開催期間中に商店街の店舗から営業してもらうことを検討しながら、より経済の波及効果を生みだすよう取り組んで行く。また、来場者の増加と共に安全面の課題が出てきたことから開催時に留意する必要がある。
- ・ とちお夜のランプ祭りと同様に、継続的な実施に向けて自立運営のための体制づくりが必要である。